会 議 記 録

会 議 名	令和6年度第5回菊川市子ども・子育て会議
日 時	令和7年3月7日(金) 午後6時00分～午後7時17分(1時間17分)
場 所	東館3階E301会議室

<p>■出席者</p>	<p>鈴木委員(会長)、勝又委員(副会長)、早川委員、大林委員、藤谷委員、深津委員、黒田委員、妻木委員、落合委員、藤田委員、増田委員、藤原委員、榛葉委員、土肥アドバイザー</p> <p>森下こども未来部長、諏訪部健康福祉部長、西川こども政策課長、堀川子育て応援課長、松村おおぞら認定こども園園長、佐藤こども政策課長補佐、武藤子育て応援課主幹兼こども保健係長、濱野家庭支援係長、木下幼保こども園係長、赤堀こども政策係長、後藤こども政策課主任主査、ランドブレイン(株)名田主任補</p>
<p>■説明内容 (西川こども政策課長)</p> <p>(鈴木会長)</p>	<p>開会・互礼</p> <p>挨拶</p> <p>改めまして皆様、こんばんは。 本日は年度末のお忙しいところ、お集まりいただきありがとうございます。</p> <p>さて、本日の会議におきましては、特定教育・保育施設、いわゆるこども園・保育園といった幼児施設の利用定員の変更案について、それからこれまでグループディスカッション等皆さまにご協議いただきましたこども計画の最終案についてご協議いただくこととなります。特定教育・保育施設の利用定員の変更につきましては、3つの園から申し出をいただき、市として精査したわけですが、現実には即した利用定員減の提案がなされるということでもあります。昨今の少子化の影響という皆さまご承知のことかと思いますが、園の定員に関わることでありますので、説明をしっかりといただいた中で、子ども・子育て会議として承認をどうかを皆さまにお諮りすることとなります。また、こども計画につきましては、前回12月の会議以降、市議会への説明、そしてパブリックコメントを実施させていただきました。本日は、パブリックコメントの結果の報告をしていただきますが、計画の最終案をご確認いただき、子ども・子育て会議として承認をどうかをお諮りさせていただきます。最後になりますが、この会議に何度も足を運んでいただきましたけれども、本日が年度内最後の会議となります。これまでの委員の皆さまのご協力に感謝申し上げます。 簡単ではございますが、以上で挨拶とさせていただきます。</p> <p>出席委員の確認(板倉委員、望月委員は欠席) 委員15名中13名の出席…成立宣言、資料の確認</p> <p>議事へ移行、進行を会長へ依頼</p> <p>それでは、議事の進行を務めさせていただきます。円滑な議事の進行につきまして、皆様のご協力をお願いします。</p>
<p>(西川こども政策課長)</p> <p>(鈴木会長)</p>	

<p>(事務局)</p>	<p>それでは、協議事項1 特定教育・保育施設の利用定員の変更について を議題とします。</p> <p>なお、こども園や保育園の利用定員を変更する場合におきましては、子ども・子育て支援法及び子ども・子育て会議条例の規定により、子ども・子育て会議に諮って決定することとされています。したがって、これから事務局の説明を受けましても、皆さまのご意見を伺った後、変更の可否についてお諮りいたしますので、ご承知おきください。</p> <p>それでは、事務局の説明を求めます。</p> <p>「特定教育・保育施設の利用定員の変更について」(資料1)</p> <p>資料1をご覧ください。</p> <p>9月の子ども・子育て会議においても説明をさせていただきましたが、本市では、待機児童を解消するため、市内全域で定員の増加を図り施設整備を推進して参りましたが、近年の少子化により、市全体で子どもの数が減少し続けている、地域により人口に偏りがある、幼稚園ニーズが減少しているという状況であり、その一方で保育需要は依然として伸びております。</p> <p>このような状況の中、園児の数の減少等により、利用定員と実際の利用人数との乖離が大きい場合には、園の運営等への影響もあることから、一定水準の保育の質を担保するためにも、利用人数の実績や地域の出生数、今後の見込み等に基づき定員変更を実施していく必要があると考えております。このような状況をご理解いただき、ご協議いただきたいと思います。</p> <p>それでは資料の説明に移りますが、まず、特定教育・保育施設とは、市の条例で定める「特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業並びに特定子ども・子育て支援施設等の運営に関する基準」を満たした認定こども園や保育所となります。このうち、「横地保育園」、「認定こども園菊川中央こども園」、「幼保連携型認定こども園みなみこども園」の利用定員について、令和7年4月1日から変更したいため、子ども・子育て会議条例に基づき、皆様にお諮りするものです。</p> <p>定員を変更する理由については、利用定員と実際の利用人数との乖離が大きく、令和7年度の見込み利用人数についても利用定員を下回る見込みであること、継続して1号認定の需要が低下していることから、利用定員を変更するものです。</p> <p>1 菊川市の現状 をご覧ください。</p> <p>以前にも説明をしておりますが、1号とあるのは3歳児から5歳児の認定こども園の幼稚部のお子さんで、2号とあるのは3歳児から5歳児の保育園または認定こども園の保育部のお子さん、3号とあるのは0歳児から2歳児の保育園または認定こども園の保育部のお子さんとなります。</p> <p>市全体の特定教育・保育施設の令和6年4月1日現在の利用定員数は、1号認定が585人、2号認定が760人、3号認定が447人、合計で1,792人となっております。この利用定員数に対して利用児童数は1号認定が292人、2号認定が740人、3号認定が412人、合計しますと1,444人となっております。</p> <p>利用児童数は、年度途中の入所により増えていきますが、1号認定では供給が需要を大きく上回っており、2号認定及び3号認定は利用定員に近い利用人数となっております。3歳児以上の状況としては、幼稚園ニーズの低下が継続して進んでおり、今後もこの傾向は続く見込みであります。</p> <p>2 利用定員の変更 をご覧ください。</p> <p>令和7年4月1日からの利用定員の変更についての説明となります。</p> <p>まず、横地保育園ですが、こちらの施設では近年2号認定の利用者数が減少傾向にあります。今年度においては、全体の利用者数は常に120人を下回っており、2号</p>
--------------	--

	<p>認定の利用者は 80 人を下回っている状況であります。令和7年4月1日の全体の利用者数は 105 人となる見込みであり、2号認定の利用者数についても 71 人となる見込みです。このような状況を鑑み、利用定員と実際の利用人数との乖離を解消することで、園の運営等への影響を少なくし、一定水準の保育の質を担保するためにも、2号認定の利用定員を減少するものであります。</p> <p>続いて、認定こども園菊川中央こども園ですが、こちらの施設では、幼稚園需要の低下の影響を受け、72 人の1号認定の利用定員に対し、利用者数は令和5年4月1日時点では 64 人、令和6年4月1日時点では 54 人となっており、恒常的に定員を下回る状況が続いております。令和7年4月1日の1号認定の利用者数は、これまで以上に減少し、40 人となる見込みであります。2号認定、3号認定については、ほぼ定員どおりとなる見込みであり、全体の利用者数を見ますと、今回変更する定員を下回る見込みとなります。先ほどの横地保育園と同様に、利用定員と実際の利用人数との乖離の解消により、園の運営等への影響を少なくし、一定水準の保育の質を担保するためにも、1号認定の利用定員を減少するものであります。</p> <p>最後に、幼保連携型認定こども園みなみこども園ですが、こちらの施設につきましては、近年、全体的に利用者数が減少傾向にあり、令和5年4月1日時点では 104 人、令和6年4月1日時点では 99 人となっており、恒常的に定員を下回る状況が続いております。令和7年4月1日の利用者数は、100 人となる見込みでありますので、さきの2園と同様の理由により、利用定員を減少するものであります。</p> <p>資料2ページの(4)に移りまして、今回の3つの園の利用定員の変更と昨年9月にお諮りしたおおぞら認定こども園及び小笠北認定こども園の利用定員の設定により、令和7年4月1日の「特定教育・保育施設の利用定員数」は1号認定 371 人、2号認定 771 人、3号認定 452 人、合計が 1,594 人となり、より実状に沿った利用定員数となります。</p> <p>3ページの 3 利用定員を変更する保育所、認定こども園の概要 をご覧ください。 今回、定員を変更する3つの園について簡単に紹介させていただきます。 横地保育園の事業の種類は、保育所、運営法人は社会福祉法横地協和会、所在地は菊川市東横地となります。 認定こども園菊川中央こども園の事業の種類は、幼保連携型認定こども園、運営法人は学校法人中央学園、所在地は菊川市本所となります。 幼保連携型認定こども園みなみこども園の事業の種類は、幼保連携型認定こども園、運営法人は社会福祉法人菊川福祉会、所在地は菊川市高橋となります。当該法人は、幼保連携型認定こども園ひがしこども園も運営しております。</p> <p>説明は以上となります。</p> <p>(鈴木会長) 事務局の説明が終わりました。こども園2園、保育園1園の利用定員を減らすという提案がありました。経営に関わる事柄でありますので、このような提案がされたわけですけれども、ご意見やご質問がありましたら、ここでお願いしたいと思いますが、何かございますでしょうか。</p> <p>(委員) 数字が現実を物語っているということで、なんとなく感じていたところが明確に出てきている。説明にもありましたが、待機児童をなくすというところからスタートしているが、ある程度量というところは満たされてきて、今後は質というところをきっちり捉えていくというところの中で、現実に即した提案になったかと思えます。</p> <p>定員の変更については、市と園が協議して決定したものなのでしょうか。</p>
--	---

(事務局)	<p>こちらの3園につきましては、事前に協議をしており、近年の状況や今後の見込みといったところを考慮した利用定員の変更となっています。</p>
(勝又委員)	<p>その協議の中で、園の運営等に関して課題として出てきているものはどんなものがあるのでしょうか。</p>
(事務局)	<p>利用定員と実際の利用人数の差が大きいことで給付費等へも影響があり、経営にも影響が生じることとなります。実態に合った利用定員とすることで、質の高い保育の提供にもつながっていきます。</p>
(勝又委員)	<p>利用定員と実際の人数の差が大きいと収入が少なくなるということですか。</p>
(事務局)	<p>利用定員ごと、園の利用人数によって園児1人当たりの支払う金額が変わってきます。例えば、200人の定員の場合は1人当たり5万円、100人になると1人当たり7万円というように、園児1人を受け入れる際の単価が変わります。利用定員が多いと単価は安くなるので、利用定員を実人数に近い数字にすることで園の運営や保育の質の向上につながるようになります。</p>
(勝又委員)	<p>よくわかりました。ありがとうございました。</p>
(鈴木会長)	<p>それでは、お諮りさせていただきます。 特定教育・保育施設の利用定員の変更について、提示された事務局案のとおり変更することを承認いただける方は挙手をお願いします。</p> <p>(挙手全員)</p> <p>特定教育・保育施設の利用定員の変更については、本案のとおり決定させていただきます。</p>
(鈴木会長)	<p>続いて、協議事項2に移ります。 「菊川市こども計画(案)」の承認についてを議題といたします。 資料は資料2、資料3となりますが、一括して説明を受けることといたします。その後、皆さまからのご意見・ご質問をいただきたいと思っております。 資料3につきましては、前回から大きく変わったところはないと聞いておりますので、変更点を中心とした簡略な説明に留めるようお願いいたします。 それでは、事務局の説明をお願いします。</p>
(事務局)	<p>私からは、協議事項の②「菊川市こども計画(案)」の承認について、アの「パブリックコメントの結果」と、イの「こども計画の最終案」について、一括して説明させていただきます。</p> <p>最初に、資料2「菊川市こども計画の策定に係る意見公募(パブリックコメント)の結果について」をご覧ください。</p> <p>私ども市では、市民の皆様の暮らしに関する基本的な計画や条例などを策定したり、改正したりする際には、広く皆様からのご意見を伺う「意見公募」、いわゆる「パブリックコメント」を実施しております。</p>

今回のこども計画につきましても、前回12月に開催した「第4回の子ども・子育て会議」において皆さんにお示した計画案をもって、パブリックコメントを実施しましたので、その結果をご報告いたします。

1の「意見公募期間」は、本年1月7日から2月7日までの概ね1か月間行いました。

2の「閲覧方法」ですが、市ホームページへの掲載のほか、私ども、こども政策課の窓口に加え、菊川文庫及び小笠図書館の行政資料コーナーに計画書と概要版を備え付けて実施しました。

なお、この公募期間や閲覧場所につきましては、市のパブリックコメントのルールに沿った形で実施をしたものです。

次に、3の「意見数及び意見の内訳」ですが、いただいた意見はありませんでした。

以上が、パブリックコメントの結果でございます。

次に、「菊川市こども計画」の最終案について、説明します。

資料3をご覧ください。

ただいまの説明のとおり、パブリックコメントに対して、寄せられた意見はありませんでしたので、資料3としてお付けしました、計画の最終案も、前回の会議でお示した内容から、計画の構成や事業内容などに、大きな変更はございません。

ただし、事務局が再度内容を精査し、一部、言葉を追加したり、数字を修正したところがありますので、その主なものを説明します。

まず、一番おもての目次をご覧ください。

ご覧のとおり、計画は、第1章から第7章、そして、参考資料から成っています。

このうち、第1章から第6章までについては、特段の修正はありません。

修正した箇所は、主に、第7章と参考資料となりますので、最初に95ページをお開きください。

ここでは、子ども・子育て支援給付の関係性を図で示していますが、真ん中に【地域子ども・子育て支援事業】と書かれた部分があります。ここには、①から19の事業が書かれていますが、前回お示したものは、一部事業が漏れており、13事業しか書かれていませんでした。正しい内容となるように、一部事業を追加しています。

次に100ページをご覧ください。

ここでは、【地域子ども・子育て支援事業】について、対象事業などを表で示していますが、2段目の「実費徴収に係る補足給付を行う事業」に関して、主な対象家庭と対象年齢・対象児童の欄が空欄でしたので、正しい内容を追記しています。

次に、102ページ・103ページをご覧ください。

先ほど、協議事項1として、「認定こども園・保育園 3園に関して利用定員の変更」をお認めいただきました。このうち、中央こども園と横地保育園の定員減につきましては、前回の会議でお示した計画案に含まれていましたが、今回新たにみなみこども園の定員減を踏まえた形で、保育ニーズの2号認定と3号認定について、それぞれ、令和7年度からの確保の方策の数値を減少させています。

また、104ページから106ページに掛けて、0歳児から2歳児の歳児ごとの量の見込みと確保の方策を示した表がありますが、こちらも同様に、みなみこども園の定員減を踏まえた形で、0歳児、1歳児、2歳児について、それぞれ令和7年度からの確保

	<p>の方策の数値を減少させています。</p> <p>最後に、参考資料の137ページをご覧ください。</p> <p>ここでは、(4)策定体制として、委員の皆さまのお名前を載せていますが、ここに「菊川市子ども・わかもの参画宣言」の宣言文を加え、策定体制を138ページに繰り下げます。</p> <p>また、138ページの策定経過を139とし、本日の第5回子ども・子育て会議の記載を追加します。</p> <p>なお、この参考資料の修正については、本日の資料に間に合わず、口頭での説明となりましたことをご容赦いただきたいと思っております。</p> <p>以上、資料3による、「菊川市子ども計画」の最終案についての、説明といたします。</p> <p>これまでご協議いただいた結果を踏まえた本最終案をもって、「菊川市子ども計画」としてまいりたいと考えています。ご審議のほど、よろしくお願ひいたします。</p>
(鈴木会長)	<p>ただいまの説明では、まずはパブリックコメントについては、残念ながら意見は出されなかったということです。こちらについて、ホームページで閲覧があったかという確認はできていますか。</p>
(事務局)	<p>ホームページの閲覧数は確認しておりませんが、見たというお話はいただいております。</p>
(鈴木会長)	<p>パブリックコメントは規定に沿って実施していただいたということですが、特に意見はなかったということです。</p> <p>資料3につきましては、前回会議で提示されたものと大きな変更はありません。ただ、先ほど説明をいただきました利用定員の変更により一部修正となりました。また、事務局の精査によって最新の情報の追加、字句等の修正も加えつつ、今回の最終案となったという説明がありました。</p> <p>それでは、皆さまからご意見・ご質問がありましたらお願いします。</p>
(委員)	<p>54 ページの 25 番の外国人支援員の配置というところがありますが、現状、小中学校へどれくらいの人数の支援員の方が配置されていて、それは足りているのか、足りていないのかということをお尋ねしたい。</p> <p>2点目に 57 ページの 41 番の生活困窮者自立支援事業の中に、生活保護受給世帯の子どもを含む、生活困窮世帯の子どもを対象に、学習・生活支援等を行います。令和8年度から実施予定です。と書いてありますが、これについて、具体的な内容等はある程度形になっているのかお尋ねします。</p>
(事務局)	<p>先に 57 ページの 41 番についてですが、今年度福祉課が担当しまして県内の事業の方法をリサーチしたところです。菊川市にどのような方法が合うのかということをお尋ねしますが、具体的な形については、令和7年度に詰めていく予定です。令和8年度から開始できるよう子育て応援課とも連携して進めてまいります。</p>
(事務局)	<p>1つ目につきましては、本日教育文化部長が欠席しておりますので、正確な数字は申し上げられませんが、外国人支援員が必要な学校には配置していると伺っています。改めて、正確な数字についてはお伝えさせていただきます。</p>

(委員)	<p>生活保護受給世帯の子どもを含む、生活困窮世帯の子どもを対象に、学習・生活支援等というのは、例えば浜松市は社会福祉協議会が中心となって、地域の方を含めてやっています。個人的な願いになりますが、業者へ丸投げという形で実施するのではなく、そういう風に市と社会福祉協議会と地域の方で協議体のようなものを作っていただいて、主体となった形で制度設計していただくとありがたいなと思っています。やはり地元の子どもたちなので、できれば身近に住んでいる地域の大人たちが、サポートしていくことがよいのかなあとと思います。</p>
(事務局)	<p>外部委託をしている所が比較的多いと思いますが、今いただいたご意見を担当課に伝え、どのような形で進めていくのか検討してまいります。</p>
(鈴木会長)	<p>この事業は、各自治体に投げられてしまっていて、地域によって差が大きいものです。実状によって違いはありますが、菊川市としてどうであるのか、どのような方が主体となって実施していくのか非常に重要な点になっていくと思いますので、引き続きお願いしたいと思います。</p>
(委員)	<p>この事業の対象として、不登校の児童・生徒を含むことができるのかということを確認させていただきたい。不登校も背景がいろいろあって、例えばひとり親家庭のお子さんもいるし、そうでない方もいます。生活は普通の家庭だけれども、不登校なので知り合いのいる塾などに行けない、そういう居場所がほしい、通いたいという子もいると思いますが、市としてそういう子も対象とすることが可能かどうか教えていただきたい。</p>
(事務局)	<p>基本的には生活困窮のお子さんが主になるとと思いますが、そういった対象者がどれくらいいるのかを精査しながら事業を検討していきます。</p>
(土肥アドバイザー)	<p>パブリックコメントの結果は0件であったということですが、子どもの意見聴取という観点から、パブコメ等で子どもたちに向けた周知をするような働き掛けはあったのかという点を伺いたいことがひとつと、この計画を策定した後子どもたちに対して知ってもらえるような工夫を考えているのか伺いたい。</p>
(事務局)	<p>1点目に関してですけれども、オンラインプラットフォームを来年度から導入させていただき、広く子どもの意見を聴取していく計画でありますが、今回の子ども計画には間に合いませんでした。この会議や子ども・若者参画協議会においてグループディスカッションを行い、意見聴取を行ってまいりました。もう少し広く、小学生・中学生・高校生等から意見を伺えればなおよかったのですが、今回の計画に関しましては、そこまで至らなかったという状況です。</p> <p>2点目の策定後につきましては、今回子ども計画の本編はもちろんですけれども、概要版と子ども・若者版と言いますか、もう少しやさしい表現にしたものもつくる予定ですので、その子ども・若者版を市内の小・中・高へ配布し周知を図っていきたく考えております。</p>
(土肥アドバイザー)	<p>おそらく、このタイミングでの記載は難しいと思うんですけれども、せっかくこの会議や参画協議会の中でも高校生・大学生から意見をもらっていると思うので、そういった背景といいますか経緯があったということ自体を計画のどこかに記載していただくということは、あってもいいんじゃないかと思っていまして、ある意味それが菊川らしさというか、プロセスにも子どもたちの意見がちゃんと入っているんだよということを書いていただくことは大事なんじゃないかなあと思いました。</p>

(事務局)	<p>先ほど申し上げたこども・若者版につきましては、現在内容を精査している所ですが、ページの制約もあるのでどこまで可能かはわかりませんが、そういったプロセスの掲載についても検討させていただきます。</p>
(鈴木会長)	<p>ご意見をいただきましてありがとうございました。 それでは、お諮りさせていただきます。 提示されました計画案をもって菊川市こども計画とすることを承認いただける方は挙手をお願いします。</p> <p>(挙手全員)</p> <p>菊川市こども計画につきましては、本案のとおり決定することといたします。</p>
(鈴木会長)	<p>これをもちまして、本日の議事は終了となりますけれども、本日をもちまして今年度の子ども・子育て会議が最後ということになりました。土肥さんから話がありましたが、こども計画の策定ということで高校生・大学生にも委員となっただき、新しい形で今年度はやらせていただき、委員の皆さまにも5回の会議にお集まりいただきました。本当にありがとうございました。</p> <p>また、土肥さんにはお忙しい中アドバイザーとして1年間ご一緒していただきましたけれども、改めて菊川市のこども施策やこども・若者の参画につきまして、コメントをいただきたいと思えます。</p>
(土肥アドバイザー)	<p>せっかくなので、高校生と大学生からも本日の感想等を話してほしいと伝えておりますので、後でコメントしてもらおうと思えます</p> <p>先ほど、パブリックコメントの件について質問させていただいたんですけれども、実は静岡県のこども計画につきましてもパブリックコメントを実施しておりまして、また公表されると思えます。記憶が定かではないんですが、静岡県でも2件くらいしか意見がなかったと記憶しております。一方で、静岡県で導入している「こえのもりしずおか」というオンラインプラットフォーム上で、こどもたちに対して意見聴取しましたら、こども計画に対する意見が150件寄せられました。特に印象的だったものが、こども計画は5か年ごとに見直しということになるんですけれども、こんなにいい計画なのになんで5年でやめちゃうのというこどもたちのコメントがたくさんありまして、それは行政計画なので5年間なんですけれども、ある意味素直な目線というか意見だなあと感じました。逆に言うと、こどもに意見を聞いてもしかたがないという意見も最初はあったわけなんですけれども、こんなにきちんと計画がどれくらいのスパンで動いているのかこどもたちが見ているんだということも県の意見として出まして、ぜひこども計画を契機としていただいて、次年度以降さまざまな形でこどもたちの声を施策に反映させていきたいなあと思っております。</p> <p>1年間ありがとうございました。</p>
(委員)	<p>私はこのようなかしまった会議に参加することが初めてで、毎回緊張して立場を活かした発言ができず、役割を果たしていないのではと思うところもあるんですけど、資料をいただいて家で読んで自分なりに考えたり調べたりして、毎回会議に参加して、思ってもいなかった指摘があったりして視野が広がったというか着眼点が増えたなと思っていて、とてもよい経験をさせてもらったと思っています。</p> <p>1年間ありがとうございました。</p>
(委員)	<p>学生の私自身が、菊川市子ども・子育て会議に参加して、意見を出し合っ、まちづくりに直接参加することができると思っていなくて、よい経験をさせていただいたと</p>

<p>(委員)</p>	<p>思っています。 1年間ありがとうございました。</p> <p>学生という立場で、こどもというか大人というか、大人にもなるしというところで、どのような発言をしようか常にいろいろと考えることができた時間になったと思います。会議の席の位置を変えていただけたら、事前レクをしていただいたりして、こどもに寄り添うとか、こどもの声を聞くという言葉はよく聞くんですけど、こういうことなんだなと感じました。高校生の探究学習で高校生がこういうまちにしたいだとかこういう施設がほしいだとかという話を聞く時に、「おっ」と思うことがあったので、ぜひ行政の方や学校が連携して、高校生たちがたくさん学んで考えたことを、こどもの声として取り入れていただけたらうれしいなと思います。</p> <p>(意見交換)</p>
<p>(鈴木会長)</p>	<p>それでは、会の進行を、事務局にお返しします。</p>
<p>(西川こども政策課長)</p>	<p>皆さま、活発なご審議、さまざまなご意見をいただきありがとうございました。それでは次第の4のその他に移ります。</p> <p>はじめに、子育て応援課の児童館・子育て支援センターの開館日の変更についてお知らせします。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>令和7年4月からの児童館等の開館日の変更についてお知らせいたします。児童館及び子育て支援センターはこどもの健やかな育成、子育て世帯の居場所・友達づくりの場、相談の場として、子ども子育て世代にとって重要な施設となっておりますけれども、近年の子育て環境の変化や保護者の多様な就労形態により、児童館の土曜日・日曜日の開館を望む利用ニーズが高まっている状況であります。このような状況を踏まえ、児童館に対するアンケート調査結果や児童館運営委員会での協議により、開館日を変更することとなりました。変更内容につきましては、現在、火曜日から土曜日の週5日を開館日としておりますが、令和7年4月から第1日曜日、第3日曜日は菊川児童館、菊川子育て支援センターを、第2日曜日、第4日曜日は小笠児童館、小笠子育て支援センターを開館し、週6日開館に変更いたします。隔週で交互に日曜日、月曜日を開館いたしますので、両館の同時休館日を是正し、保護者の多様な就労形態にあわせ、休日でも利用できる、雨の日でもこどもと一緒に遊ぶことができる、また、子育て支援センターにおきましては、子育てに対する不安や悩みを相談できる機会を増やして、お子さんの健やかな育成、居場所づくり等、子育てサービスの向上を図ってまいります。市民の皆さんへの周知につきましては、広報菊川3月号、市のホームページへの掲載やSNSによりお知らせしていく予定です。</p>
<p>(西川こども政策課長)</p>	<p>子育て応援課からのお知らせでした。 最後に、事務連絡をさせていただきます。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>次年度の会議の開催につきまして、ご連絡させていただきます。</p> <p>来年度の8月頃を目途に次回の会議を開催させていただく予定です。日程の詳細につきましては、改めてご連絡させていただきますが、ご出席いただきますようお願いいたします。また、皆さま方の任期につきましては、2年となっております。従いまして、来年度も引き続きお願いをすることとなりますが、4月からの人事異動等によりまして、委員の継続がかなわない場合は、恐れ入りますが今月中に事務局まで申し出させていただきますようお願いいたします。</p> <p>もう1点、昨年選定にご協力をいただきました小笠北認定こども園の愛称ですけれ</p>

<p>(西川子ども政策課長)</p>	<p>ども、審査の結果「きたっこ」に決定しました。この小笠北認定こども園の建築工事につきましては、2月末をもって無事に建物が完成しております。本日、皆さまの机上にチラシを配布させていただきましたけれども、市民の皆さまへのお披露目の機会として、3月24日、月曜日の午後に内覧会を開催させていただきますので、ご都合のつく方は足を運んでいただければと思います。</p> <p>それでは、閉会にあたりまして、こども未来部長の森下よりご挨拶申し上げます。</p>
<p>(森下こども未来部長)</p>	<p>本日は、大変お忙しい中、菊川市子ども・子育て会議にご出席いただくとともに、皆さまから貴重なご意見をいただきありがとうございました。また、鈴木会長におかれましては、本日も議事の進行をありがとうございました。本会議ですけれども、今年度、こども計画の策定という重大なテーマがございまして、例年2回の会議を今年度は5回開催し、また、会議も夜の開催ということで、例年と違う形で開催させていただきました。こども計画の策定にあたりましては、全国的にも今年度初めてつくるものであり、見本にするものがなく、どこの自治体も試行錯誤しながら策定してきたと思います。私事ですけれども、市役所へ勤めて40年近くになりますが、4つの計画を1つにまとめて作るということやこどもの意見を聞いて計画に反映させていくということは前例がありませんでした。そういった点では、本当に皆さまのお力添えによって、菊川市らしいこども計画ができあがったと思います。本当にありがとうございました。本日、皆さまに計画を承認していただきましたけれども、計画は策定して終わりではありません。来年度から、いかに効果的に推進していくかということも重要な事となります。事務局から話がありましたが、委員の皆さまは本年度から2年間の任期でお願いしております。人事異動や諸事情等により、今年度限りという方もいらっしゃると思いますが、来年度も引き続きよろしく願いいたします。最後になりますが、皆さまの今後のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。1年間、本当にありがとうございました。</p>
<p>(西川子ども政策課長)</p>	<p>以上で、第5回子ども・子育て会議を終了させていただきます。最後に、互礼を行いますので、皆様ご起立をお願いします。</p> <p>「相互に礼」。ありがとうございました。お気を付けて、お帰りください。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>